

# 潤う干潟～調整池からはじまる生態系づくり～

## SITE

千葉県船橋市海老川及び三番瀬周辺

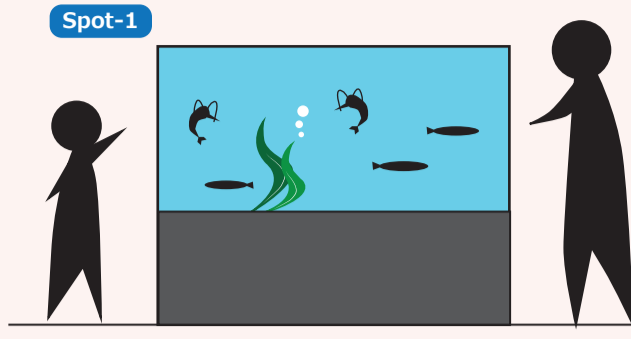


## CONCEPT

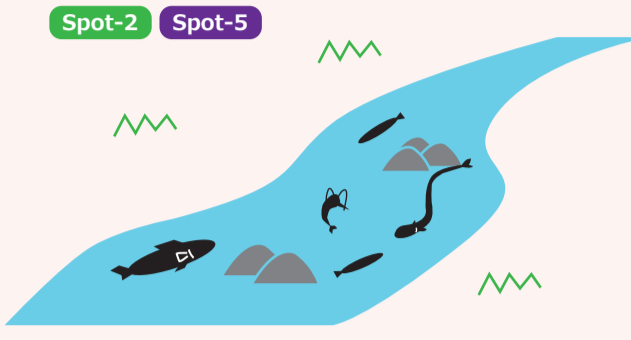
洪水被害対策のため、海老川中流域に約 22ha もの調整池が計画されている（供用開始 2030 年予定）。この大規模災害対策インフラを生態系維持のためのインフラと地域コミュニティの拠点として利用することを目的に、調整池公園内に地域住民利用施設を設けることを提案する。

加えて、徐々に調整池の底にたまっていく土砂を用いて、地盤沈下により減少している三番瀬の干潟を再生するシステムを考案した。結果として河口周辺の生態系も再生し、三番瀬 - 海老川 - 調整池を往來する生物にとっても住みよい環境が整えられ、海老川流域全体として生物多様性の維持に寄与する。

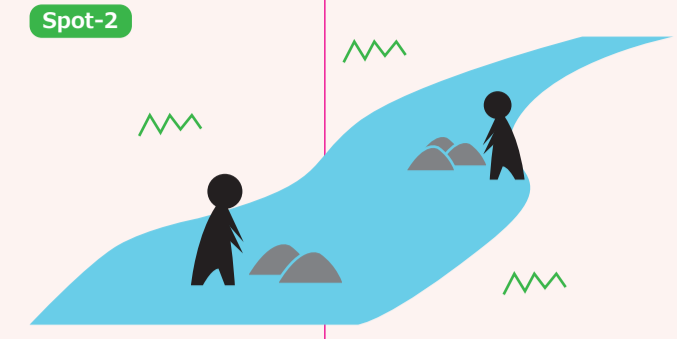
## SYSTEM\_1 調整池での環境づくり



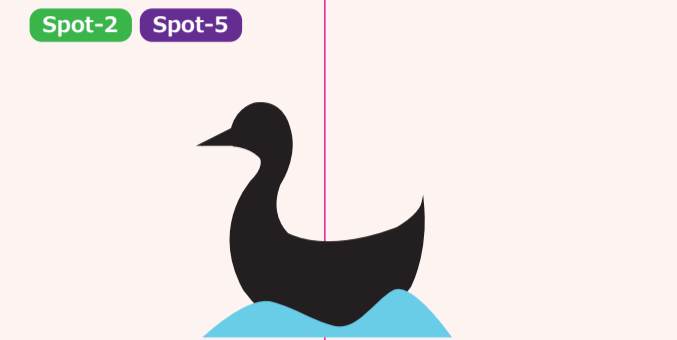
近隣の小学生が中心となって、「住民参加型アクアリウム」で、ヌマエビやメダカなどを育てる。



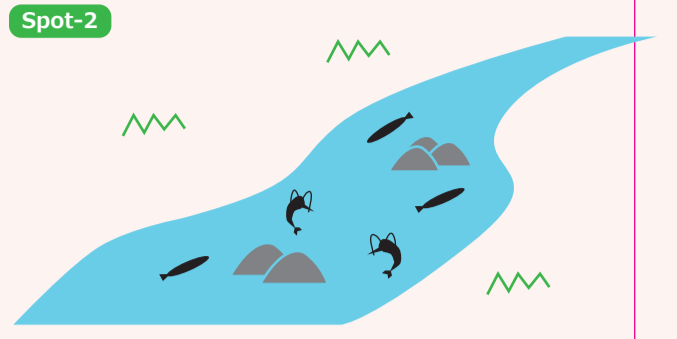
生息環境が整えられ、餌である水生生物が増えたことにより、ニホンウナギやギンブナなどの重要種の数が回復していく。



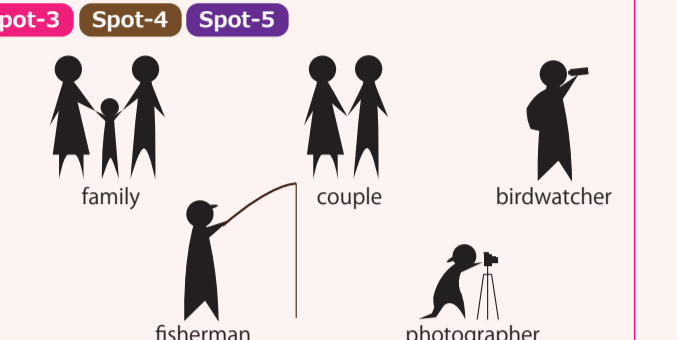
地元の元漁師に教わりながら、ニホンウナギやギンブナなど水域の生態系にとって重要な種の生息しやすい環境をつくる。



河川の生態系が安定してくると、その魚や虫を扱う鳥も調整池公園を訪れるようになっていく。



「住民参加型アクアリウム」で育てていたヌマエビやメダカが成長したら、川へ放流していく。



魚や鳥などの多様な生物相を目標に家族連れや釣り人などが訪れ、新たな地域コミュニティの場所として賑わう。

## ABSTRACT

### 「海老川」

船橋市中央を流れる川。いくつかの湧水を起点に、台地に樹枝状に広がる「谷津」を通り、本流へ合流し中心市街地から河口へとぬける。

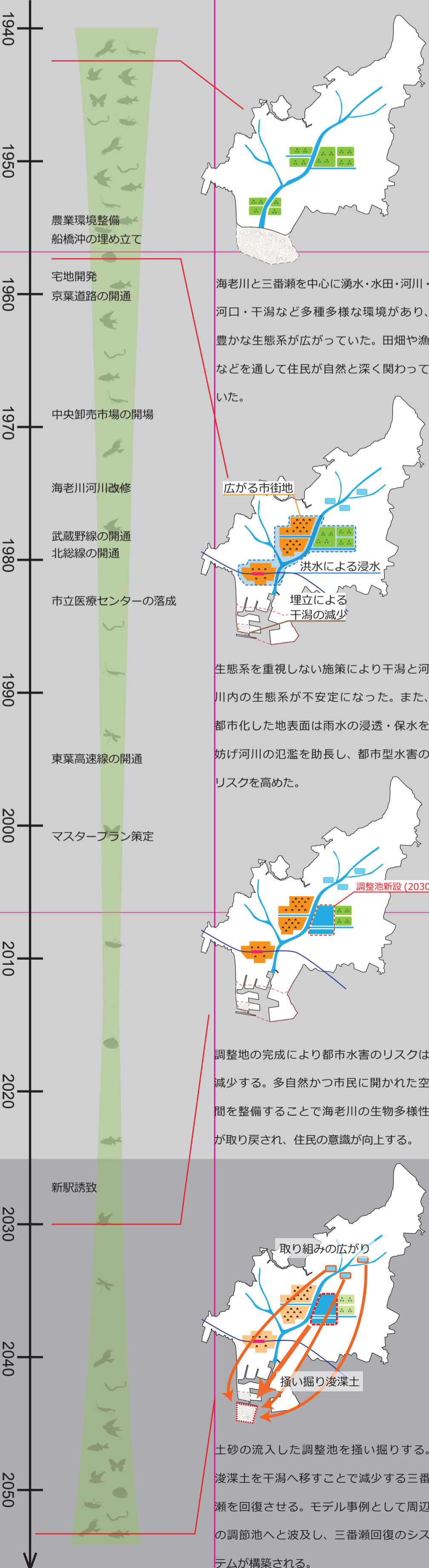
### 「三番瀬」

埋立が進んだ東京湾沿岸に残る貴重な干潟で、海老川河口が東端に流れ込む。旧江戸川河口の土砂が堆積し、鳥類・水生生物の豊かな生態系が育まれてきたが、江戸川放水路の完成・沿岸部埋立といった環境の変化から土砂の堆積がなくなり、また地盤沈下による干潟の減少が続いている。

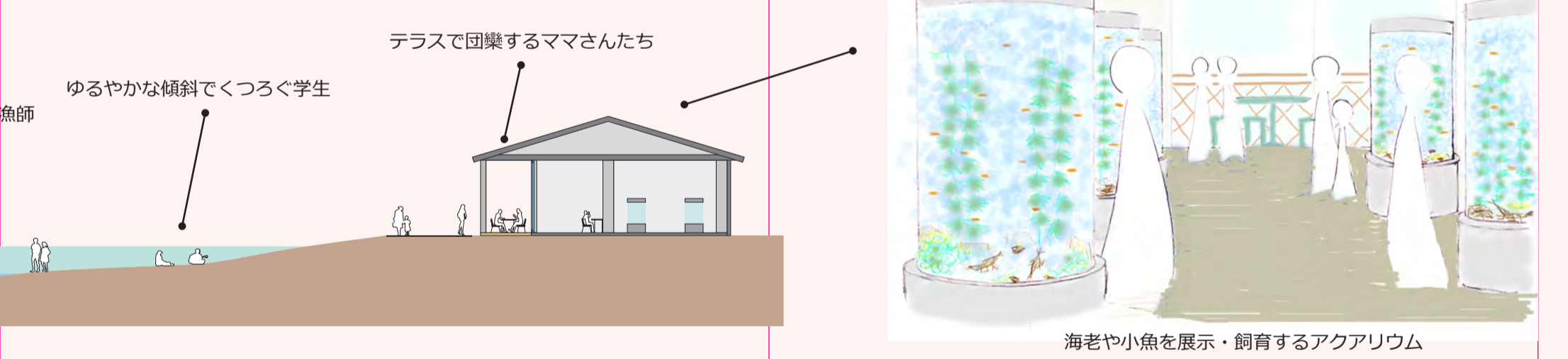
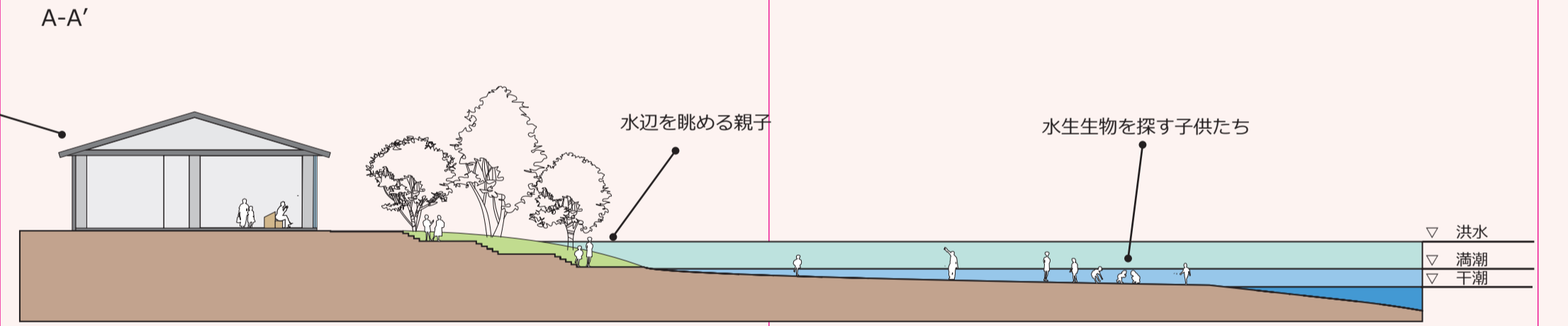
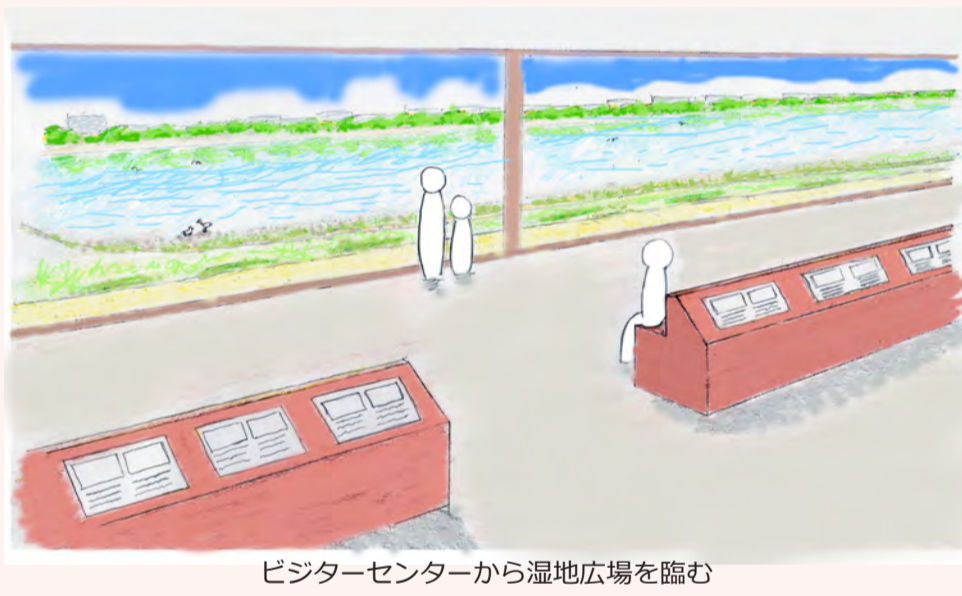
## DESIGN\_PLAN



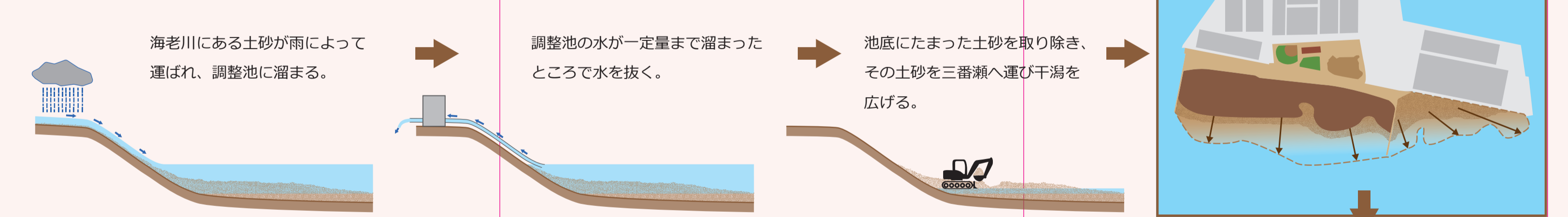
## TIMELINE



## DESIGN\_SECTION



## SYSTEM\_2 掘り掘りと干潟の再生



## PROJECT CYCLE

